

一 富樫兵左衛門秋山経之助討死之事
一 飛鳥山大橋現見新山民渡門之事

羽澤記卷之廿八

中務出家系義興小之方姓君之事

草刈備前守軍部一して大將の首と心得て義光の如く
陣へ押掛け合戦の次才て一言よーけしバ義光不斜
にまきびけんの志を遂大なりとて退きの餘地は感状
とほくとれけり乃ち備前守軍の者としてたのへ文
しある中務と名ある連判の輩は出されを欲しつねを
下さるけり然中一は坂崎主中務とて悪を成りて職